

横浜市立滝頭小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「手をつなごう 笑顔いっぱい 大好き滝小」	<自分づくりに関する力> <心身ともにたくましく生きる力> <持続可能な社会の創造に貢献する力>

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○「手をつなごう 笑顔いっぱい 大好き滝小」を子ども一人ひとりが実感できるように、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。 ・集団生活を通して、豊かな人権感覚を育てる教育を推進します。 ・学びの楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・クラスや学年の枠を越えて、相互に啓発・連携しつつ、全職員で全校の児童を育てる体制づくりを推進します。 ・家庭・地域と連携し、信頼される学校づくりを推進します。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく 知	① 楽しく、わかる授業の充実を図り、達成感や成就感を数多く経験させる。 ② 基礎・基本の定着を図り、意欲をもって主体的に学ぶ子どもを育成する。
担当 学力向上委員会	③ 日々宿題を課し、採点・手直し・理解補強を積み重ね、家庭学習の充実や基礎・基本の定着を図る。

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

学力については、どの学年も横浜市の平均に達してはいない。学習意識、生活意識とも学年差はあるが、学校全体としては昨年度に比べるとやや上昇している。

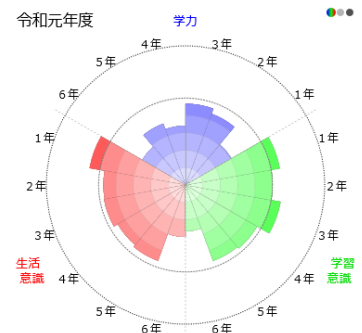
基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指した学習の推進と学習習慣の定着をめざし、力をつけてきたが、さらに学びの楽しさを実感できる授業づくりに努めたい。問題解決的な学習を推進し、授業を通じて子どもの興味・意欲・関心を引き出すとともに、自ら考える力や表現する力を育てていきたい。

(2) 学力層を捉えた分析

どの学年、教科においても横浜市平均に比べ学力層Dが多く、学力層Aが少ない。特に算数では、学力層Dが4割を占めている。少人数指導を効果的に取り入れ、個に応じた指導を進めるとともに、家庭との連携を大切にし、学習習慣の定着を図っていくようにしたい。また、一部教科担任制を導入し、授業の質的向上を図るとともに、学年の複数の教員の目で児童一人ひとりのよさやつまずきを丁寧にみとることができるようにしたい。

(3) 学習意識・生活意識と学力層とのクロス集計による分析

昨年度に比べて、学習に対する意識が高まっている。特に算数では、半数以上の児童が算数の勉強が好きで大切だと考えている。昨年、一昨年と比べ、徐々に高まっていることが分かる。少人数指導の効果が少しずつ現れていると思われる。今後も、子どもたちにとって必要感や切実感のある学習課題を設定することを意識し、授業づくりをしていくようにしたい。



3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◆好奇心 ◆基本的な生活習慣をつくる態度 ◆主体性・積極性 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の一員としての自覚をもち、共同的に活動することを通して、学校に慣れ、安心して学校生活を送ることができるようにする。 ○子どもの興味関心や思いを大切に、各教科等の学習でこれまでに身に付けた力を発揮したり、新しい課題に取り組んだりすることができるようにする。 	
2年		<ul style="list-style-type: none"> ○学習の基礎基本を確実に身に付けるとともに、課題に対して自分の思いや考えをもって取り組むことができるようにする。 ○生活科を軸に、豊かな活動や体験を通じて、自ら問題と関わり、解決しようしたり、自分の思いや考えを表現したりすることができるようにする。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域を愛する気持ち ◆社会生活の中での協調性 ◆他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着を図ると共に、知識の習得で終わらず、仕組みを理解することで、様々な場面で知識を応用できるようにする。 ○地域と関連付けたり、ICTを活用したりと場の設定を工夫することで、興味や疑問をもち、友達と協働しながら追究していくことができるようにする。 	
4年		<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しや補足的指導、家庭学習で保護者の協力を得るなど読み・書き・計算の基礎基本の徹底を図る。 ○授業デザインを明確にする。めあての確認→自力解決→共同解決→全体での確認→めあての振り返り。 ○全教科、領域で、自分の意見や考えを自信をもって表現できるように、発表や話し合いの機会を増やす。 ○子どもたちにとって身近で魅力的な教材開発に努める。各教科や総合的な学習の時間との関連を図る。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分らしさを発揮しようとする姿勢 ◆意思決定する力 ◆メタ認知する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間めあてを明確にし、子ども自身の振り返りを生かして学習を深めたり、成長や課題を捉えたりできるようにする。 ○一部教科担任制を導入し、子どもが「できる、分かる」を実感できる授業づくりに努めることで、学力の向上を目指す。 	
6年		<ul style="list-style-type: none"> ○学習や生活において、めあてを立てて終わりにならないように、目指す姿を具体的にしながら、達成までの到達過程を意識し、自分がどのような状態にあるのかを把握できるように振り返りを行う。 ○一部教科担任制、チーム学年経営を活用し、学力の向上を図るとともに、児童理解を深める。 	
個別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ◆好奇心 ◆社会生活の中での協調性 ◆自分らしさを発揮しようとする姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材教具や場の設定を工夫し、学習したことを生活に生かせるようにすることで、子どもたちが「できた」「やってみよう」という気持ちもてるようにする。 ○自分の思いを必要感をもって表現する場面を学校生活の様々な場面で取り入れ、人やものとの関わりを広げていけるようにする。 	